

討論

空間計画の観点からみた復興のあり方

日本学術会議学術フォーラム

「今、復興の力強い歩みを一災後のエネルギー政策・産業復興を考える」

第2部 東日本大震災からの「産業・雇用」復興支援

東京大学大学院工学系研究科

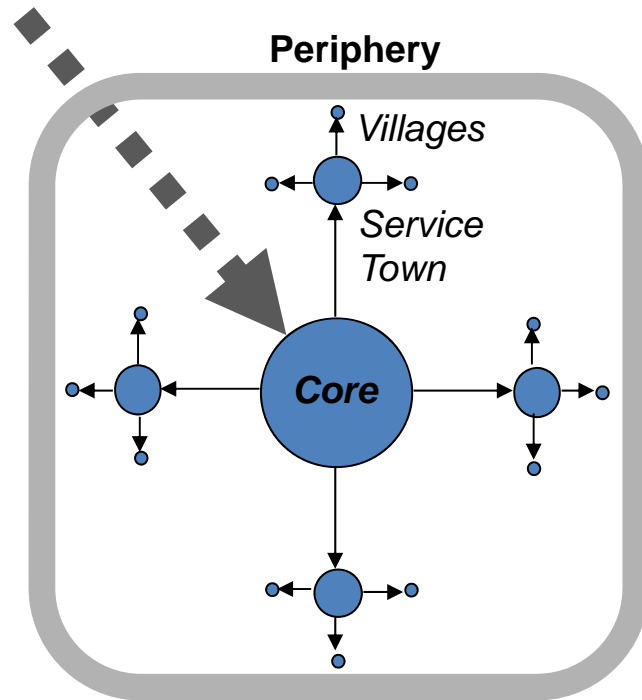
都市工学専攻 准教授

城所哲夫

新たな地域空間コンセプトの展開

Hierarchical Central Place Model

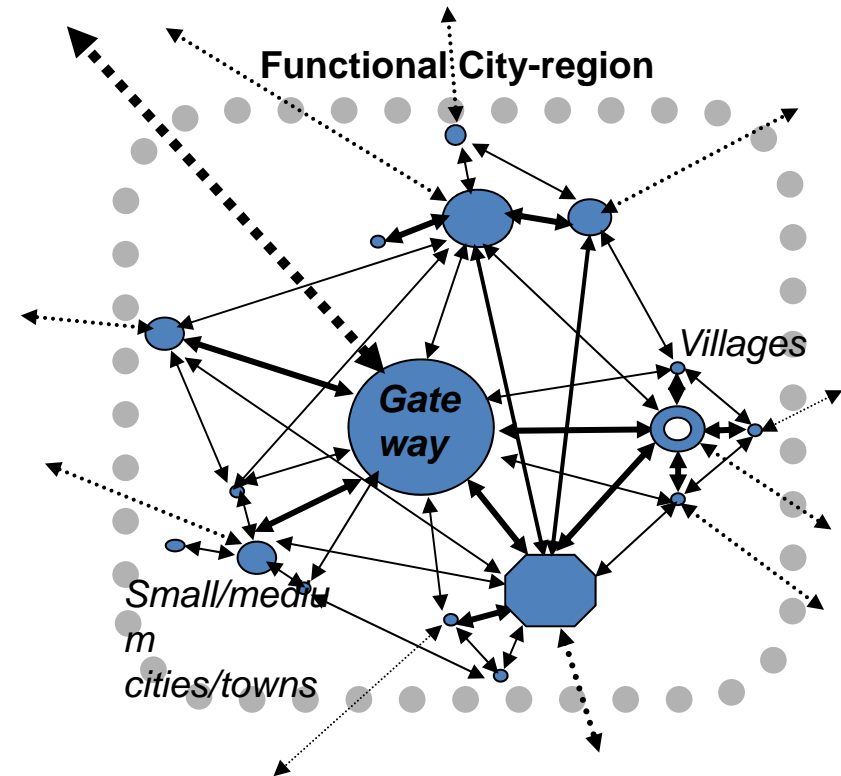
Primate city/World



- ・産業による階層化 (3次→2次→3次)
- ・都市的サービスの階層的配置 (高次→低次)

Polycentric Network Model

Global



- ・水平的な独自性、補完、融合の関係
ex. 産業クラスター、6次産業化²
- ・都市的サービスのネットワーク連携

地域空間の重層的ネットワーク

- 地域空間を構成する3つの複層的ネットワーク
ただし、それぞれ、空間的に異なる空間構成をもつ
→水平的特化、補完、融合を生み出す地域の固有性

地域イノベーション・ネットワーク

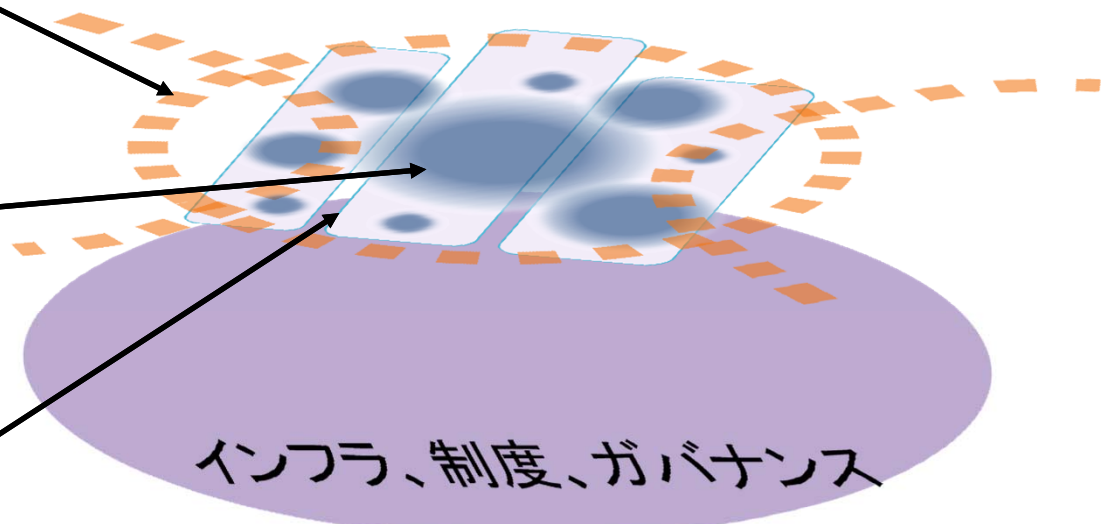
- 産学連携、B to B サービス、
アウトソーシング、etc

広域サービス・ネットワーク

- 通勤圏、広域商圈、広域文化・
医療・教育圏、etc

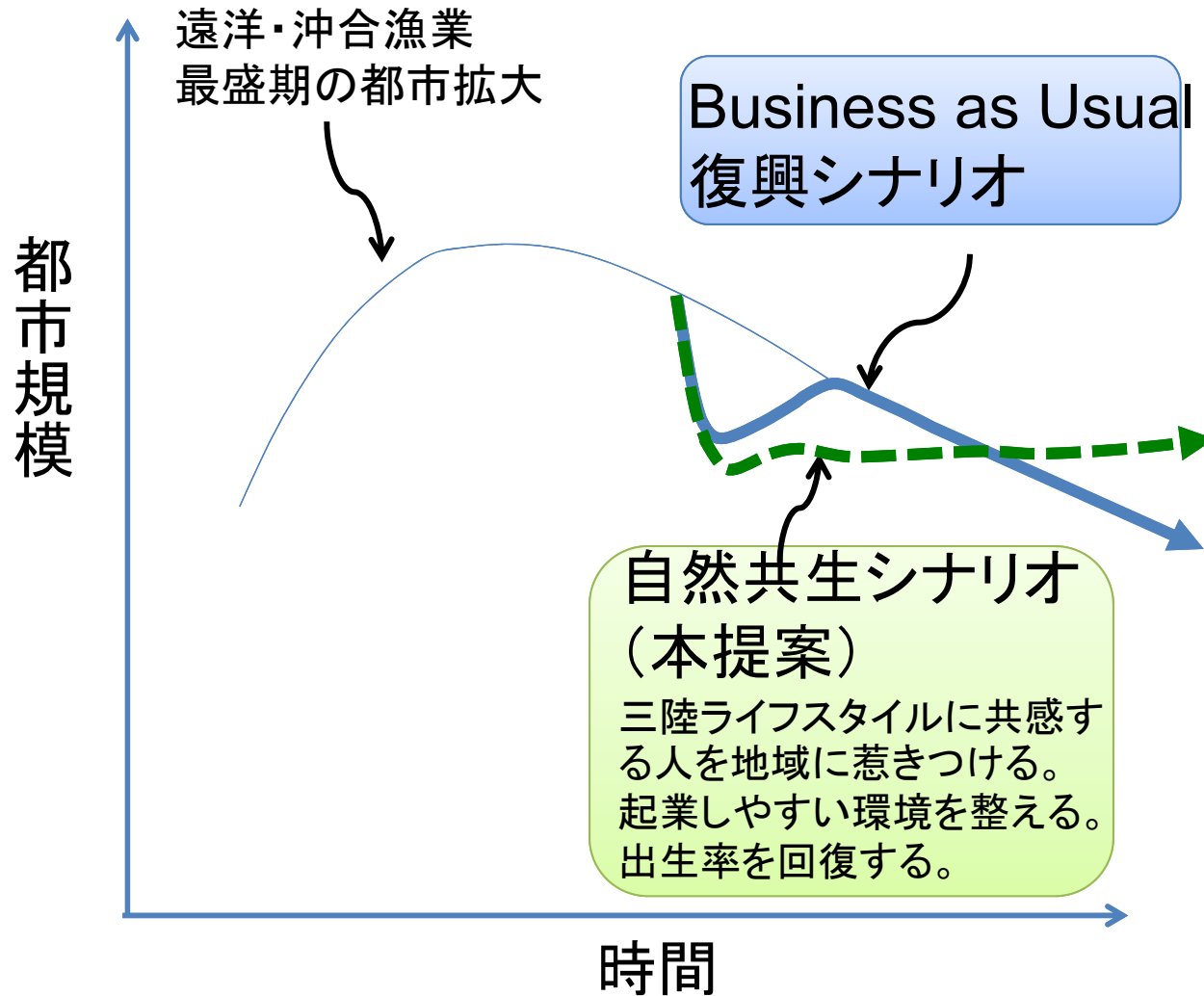
エコ・カルチュラル・ネットワーク

- 流域生態圏、エネルギー自立圏、
地産地消圏、地域固有の文化、etc.



地域空間の重層的ネットワーク

三陸地域の復興シナリオ・イメージ



「三陸ライフスタイル」を世界に発信し、人々をひきつける

1. 三陸の自然と文化を再生する。

- 巨大津波防潮堤に象徴される、人と自然を分断する社会から、津波防潮堤を建設せず、むしろ、取り除き、自然と文化の再生を丁寧に進めることにより、自然と共生する社会へと価値観を転換する。

2. 縮退を積極的にとらえ、生活文化を継承するまちなみを、集落ごと、地域ごとに漸進的に育てる。

- 人口の減少にともなう市街地の縮退と内陸、高台で津波災害を避け、さらに今までの生活文化を継承するまちなみを、ニュータウン的な発想で大規模・画一的に建設するのではなく、集落ごと、地域ごとに漸進的に育てる。

3. 雇用の場を内陸へと再配置する。

- 水産加工業等、歴史的経緯のもとで港に近接して立地しているものの、内陸に立地することが可能な雇用の場は、内陸に立地することを誘導する。

4. 「産業の誘致」から「人を惹きつける」ことへと地域活性化の考え方を180度転換する。

- 豊かな自然文化とともに暮らす三陸ライフスタイルを世界に発信し、その自然と共生する価値観に共感する人々を三陸地域へとひきつけ、地域活性化へとつなげる。
- 仙台、盛岡さらには新幹線、空港へのアクセスの強化により、都市文化も同時に享受することができるヴァイブラントな地域像をつくりあげる。
- 多様な定住スタイル、若者にとって魅力的なライフスタイル、起業しやすい環境をつくる。

三陸ライフスタイルへの共感というソーシャル・ キャピタルの醸成をベースとする復興

三陸ライフ
スタイルへの
共感

起業支援
・マイクロ・ファイ
ナンス
(行政、金融機関、
市民、ファン、サ
ポーター)

場合によっては
まちづくり会社
との連携

大都市、世界へ。

まちづくり会社
による廉価な賃
貸住宅の提供

事業化

体験・交流

起業

三陸
ライフスタイル

多様な
定住の
形態

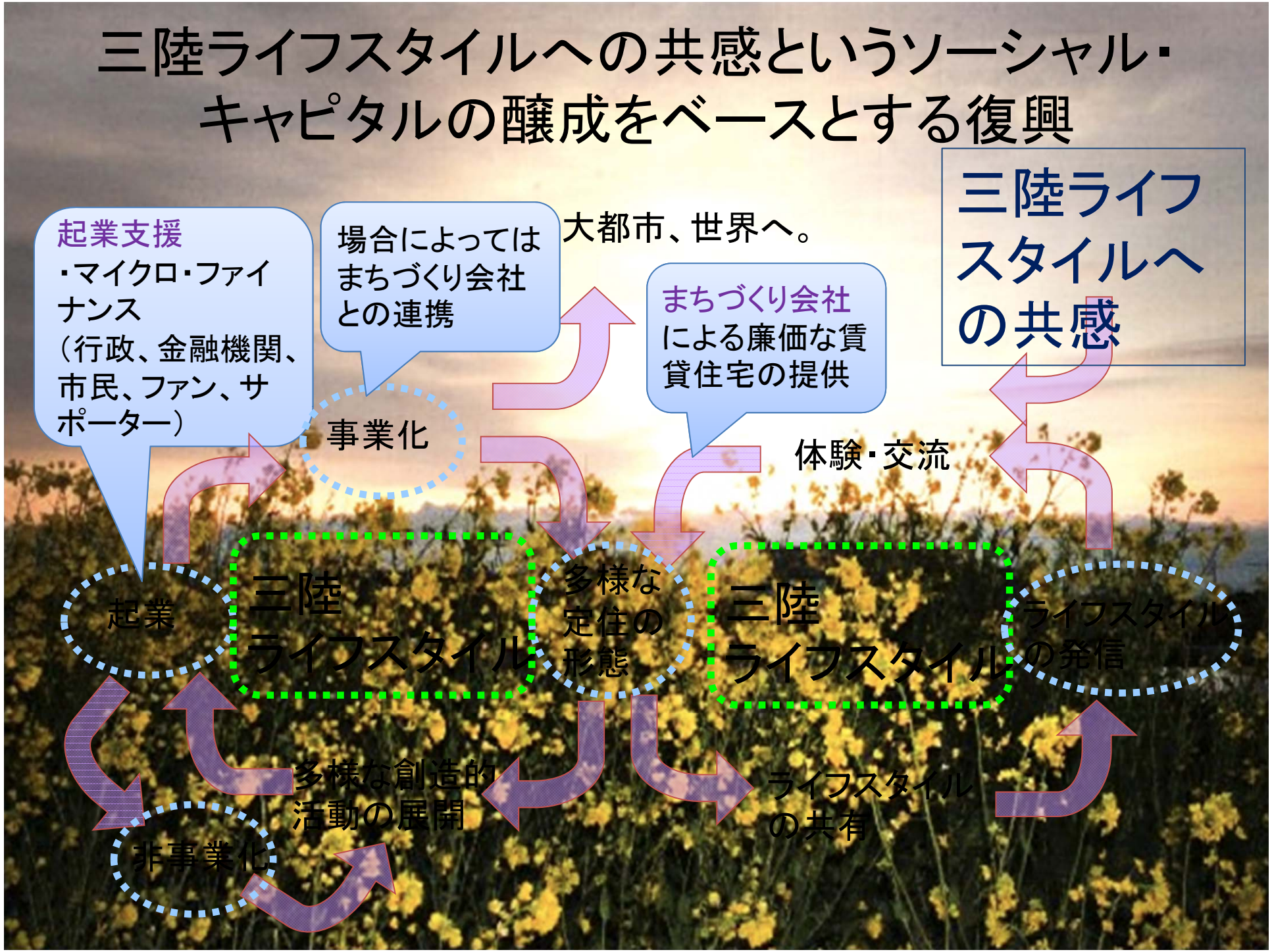
三陸
ライフスタイル

ライフスタイル
の発信

多様な創造的
活動の展開

ライフスタイル
の共有

非事業化



多彩なまちづくり会社の展開が 地域の魅力を高める

まちなみの再建と 賃貸住宅の供給

生活の場としても観光地としても魅力的な居住空間・街並みを実現する

- ・人口減少に伴って、改築・減築・用途変更等を行うことを想定し、賃貸住宅を供給。あわせて、移住者への低廉な賃貸住宅も供給。
- ・地元の技術、木を使って家を建設し、まちなみ、むらなみを継承する。

6次産業の振興

まちづくり会社が主体となって6次産業の振興を行う

たとえば。。。

- ・浸水地域における菜の花、ひまわりの栽培
- ・菜種油と菜種油を使った製品の開発・製造・販売
- ・養蜂と蜂蜜を使った製品の開発・製造・販売
- ・廃油を使った石けんの製造・販売
- ・バイオマス発電

復興の象徴的プロジェクトに

交通・生活 サービス

住民、観光客の移動、輸送需要に応える

「まち」と「むら」間で

- ・住民の移動需要
- ・福祉・医療サービスとの連携
- ・移動マーケット・図書館
- ・観光客の移動需要

をITを活用して効率的に輸送する。(ex.コミュニティ・バス)

まちづくり会社のネットワーク化

たとえば、コミュニティ・バスの広域ネットワーク化

まちづくり会社によって、地域コミュニティを結びつけ、さらに発展させる！

例えば...

「菜の花バス」(コミュニティ・バス)
を「まち」「むら」間で効率的に輸送
する。

【運行】IT技術を用いて、人と物の移動を一
体的に行う。

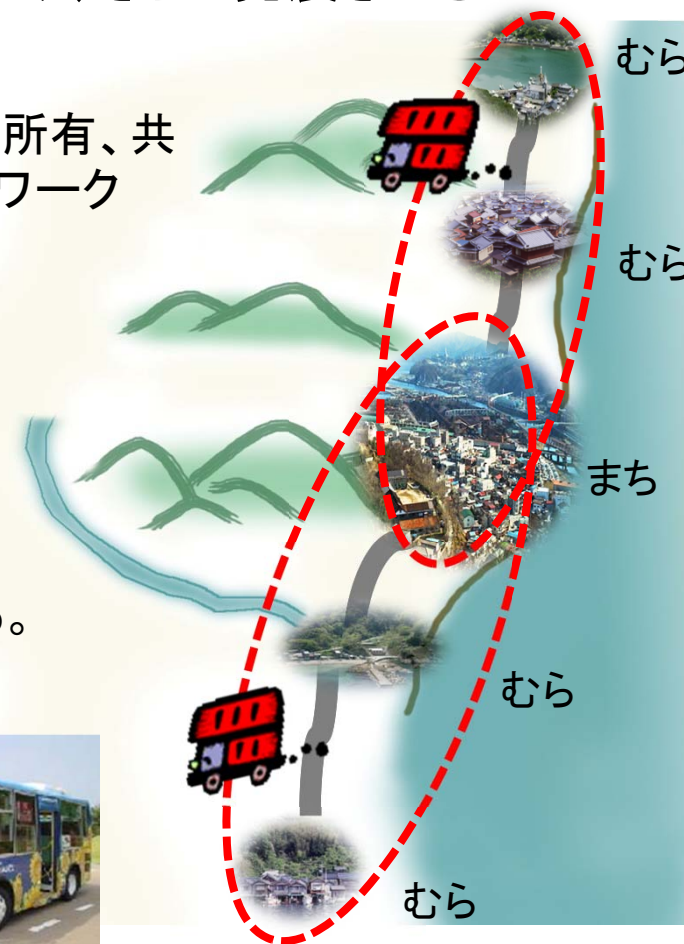
【動力】菜種油(花関連産業で自主生産)

【保有運営形態】複数のまちづくり会社で共同保有する。

【バス外観】「菜の花バス」の名にふさわしい、
カラフルで可愛い外観。観光面でのアピ
ールポイントとして使えるような印象的なデザ
イン。



バスの共同所有、共
同運営ネットワーク



⇒まちづくり会社同士のネットワークの拡大
を支援する体制の整備も必要

三陸地域 生活サービス ネットワーク



広域地域空間ネットワーク

凡例

将来市街地

新幹線

高速道路

森林

空港

国公立大学

基本サービスネットワーク
(通学・医療)

中位サービス
・ネットワーク
(都市的生活)

広域サービス・ネットワーク
(東北全域・仙台ハブ)

From 山形・秋田など

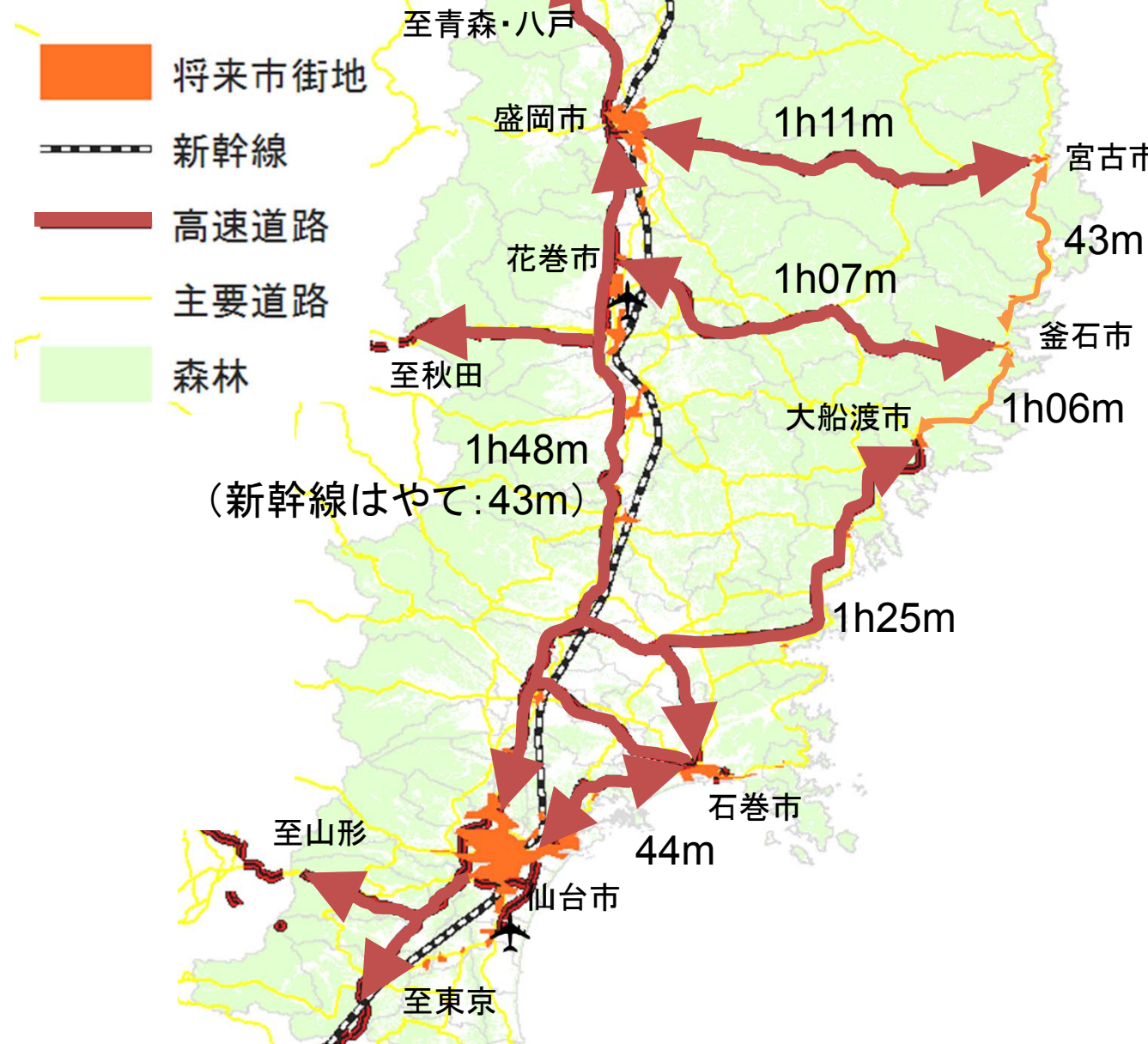
To 東京・大阪・諸外国など

①: 仙台都市圏(140万人前後)
(仙台市・栗原市・石巻市・名取市等)

②: 盛岡都市圏(35万人前後)
(盛岡市及び周辺自治体)

③: 岩手中央都市圏(35万人前後)
(花巻市・北上市・奥州市・一関市)
(人口は概数)

目指すべき空間構造 広域交通ネットワーク



□高速移動ネットワーク
仙台、盛岡、内陸主要都市からの一時間圏の構築

→地域内では鉄道よりも道路により都市地域間を結ぶほうが効果が高い。

→三陸縦貫道により、三陸都市を南から北まで結ぶよりも、釜石以北については、内陸都市と結ぶ高速道を建設する方が効果が高い。

□通常移動ネットワーク

→基本生活圏におけるきめ細かな移動のための道路の復旧・整備

ご清聴どうもありがとうございました！